

2015年11月17日

非血縁者間骨髄移植・採取認定施設
移植認定診療科連絡責任医師 各位

(公財) 日本骨髄バンク
医療委員会

骨髄移植時に患者さんがアナフィラキシーショック と考えられる血圧低下がみられた事例について（ご報告）

この度、患者さんが骨髄移植時にアナフィラキシーショックとみられる血圧低下がみられた事例が報告されましたので、情報提供いたします。詳細については、下記、移植施設からの報告（全文掲載）をご参照ください。

以上

以下、移植施設からの報告（全文掲載）

骨髄移植時に合併したアナフィラキシーショックと考えられる血圧低下がみられた例

20歳代男性の再生不良性貧血のレシピエント(O型+)に対し、骨髄移植を施行しました。移植前処置はFLU+CY+ATG+TBI2Gy、血液型・性別一致ドナーで、有核細胞数は $1.0 \times 10^8/\text{kg}$ でした。前投与としてハイドロコルトン100mg投与後、血液型一致であったため、血球血漿除去なしで骨髄移植を開始しました。30分程度経過したところで全身の蕁麻疹が出現したため、輸注を一旦中止し、ハイドロコルトン100mg投与し、蕁麻疹は消失しました。その時点では血圧などバイタルサインに異常は見られていませんでしたが、輸注再開前に、急激な血圧低下(収縮期血圧50mmHg台)、嘔吐がみられ、アナフィラキシーショックと考え、アドレナリン0.5mg×2 とハイドロコルトン200mgの投与を行い、血圧の改善がみられました。また、血中酸素濃度の悪化や意識状態の悪化はみられませんでした。その後頭痛の訴えがあり頭部CTを施行しましたが、明らかな出血性病変などはみられませんでした。始めに輸注した骨髄液はまだ100ml程度のみであり、輸注液中の蛋白を減らすために、残りの骨髄液の血球血漿除去を行い、ICUでAラインで動脈圧をモニターしながら、ハプトグロビン・ハイドロコルトン500mg投与後に、処理後の骨髄を輸注しました。また輸注後6時間後と12時間後にハイドロコルトン100mgの投与を行いました。処理後の骨髄を輸注以降は血圧などバイタルサインに問題はみられず、翌日にICUを退室しました。

以上、経過報告させていただきます。